

日付:2016年7月3日／聖書:サムエル記下6:12～23

説教:「民と共に喜び踊る」

ダビデは「神の箱」をエルサレムへ運び上げる事にした。しかし、事件が起きる(6節)。「神の箱」を運び上げる途中で牛がよろめき、「神の箱」が傾いた。「神の箱」を守ろうと「手を伸ばし、箱を押さえた」ら神の怒りを買って殺された。何故か？

この事件を知ったダビデは、恐れをなし“触らぬ神に祟りなし”ということで「神の箱」を避ける。そういう事件が起きれば、そうなるのも分かるが、「神の箱」を預かった「ガト人オベド・エドムの家」が「祝福された」と聞くと、ダビデ「王は直ちに出かけ、喜び祝って神の箱をオベド・エドムの家からダビデの町に運び上げた」(11、12節)とある。恐れていた「神の箱」が、祝福をもたらすと聞けば、またすぐに自分のところに運び出す。本当に調子のいいダビデだが、「主の箱を担ぐ者が六歩進んだとき、ダビデは肥えた雄牛をいけにえとしてささげた。主の御前でダビデは力のかぎり踊った」のである。ダビデと言う人は、本当に神を恐れ、神を喜ぶ人であるという事である。神と言う存在を本当に信じて、神に対して時に恐れおののき、時に素直に喜ぶ信仰の人ということであろう。ダビデは、神に対し、「焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげた」とあるが、「焼き尽くす」とは、神への感謝を表し、「和解の献げ物」とは、罪の悔改めを表している。そこには、あくまでも主体は神であり、神が私の主であるということを証している。

何故ウザは、神に殺されたのか？6章3節に「彼らは神の箱を新しい車に載せ、…その新しい車を御(ぎよ)していた」とあるが、この「御していた」とは、「御者(ぎよしゃ)」という意味がある。「御者」とは、操るという意味があり、このウザという人物は、「神の箱」を「御者」していた、「神を自分でコントロールしようとしていた」という意味がある。この6章は、神を心底恐れ、敬い、喜び、神が主であるという事と、神の御者になろうとする人間の傲慢さとの対比が見える。

もう一つ、ダビデの妻ミルカは、「主の箱がダビデの町に着いたとき、…主の御前で跳ね踊るダビデ王を見て、心の内にさげすんだ」。神を喜ぶという点では、ダビデとミルカの信仰の相違がある。ダビデはイスラエルの王でありながら、その地位を誇るよりも、人として、人々と共に、民衆と共に、神を喜び、神を恐れ、そして敬うという事を出している。私たちはどうか？教会はどうか？自分たちだけで教会のみで神を喜ぼうとしていないか？民と共に、民衆と共に神を喜ぶ者か？民衆と共に、怒り、苦しみ、悲しみ、…民衆と共に喜ぶことを、教会として大事にしていきたい。(神谷)